



JOYFUL HONDA TSUKUBA F.C.

[全国社会人サッカー一選手権大会 開幕直前!]

Road to JFL!! 3年前、躍進の軌跡

地域の社会人サッカークラブ最
高峰を決める大会、全国社会人
サッカー選手権大会。「全社」と
略されるこの大会の出場権を、今
季3年ぶりに獲得したジョイフル
本田つくばFC。(以下つくばFC)
このチームの記憶に「全社」
の二文字は強く刻まれている。3
年前の快進撃、確かな手ごたえ、
そして今。大会開幕前に、当時を
振り返る。

3年前の快進撃 夢の始まり

客観的に見て、3年前はそもそも
「全社に出場すること」自体が
快挙だった。全社に出場するため
には、関東予選を勝ち抜かなけれ
ばならない。関東予選の出場権
は、関東サッカーリーグ(以下関
東リーグ)所属チームと、各都県
代表チームに与えられる。当時、
茨城県社会人サッカーリーグ(県
リーグ)の1部に所属していたつ
くばFCにとって、予選の時点
で、「格上」を倒さなければ全国
への道は開かれない険しい戦い
だった。その中で、初戦のクマガ
ヤサッカースポーツクラブ(埼玉
県代表)に勝利を収めると、関東
リーグ1部、つまり当時2つもカ
テゴリーが上の流通経済大学FC
と東京23フットボールクラブの2
チームを見事撃破。クラブ史上初
となる全社出場を決めた。

全社1回戦 vs 三菱重工長崎

100
得点・78分 つくばFC 深澤裕輝
全社初戦となった三菱重工長崎

戦。しかし、「特に気負いもな
く、良い形で臨んでいた。」と副
島秀治(つくばFC監督)が言う
ように、堂々とした戦いぶりで一
進一退の攻防を繰り返す。試合
後のインタビューで「初日で負け
て帰るわけにはいかなかった。」
と力強く語った、つくばFCの背
番号10を背負う深澤裕輝が、相手
ゴールキーパーとの1対1を冷静
にゴールへ流し込み1-0、全国
初勝利を飾る。

2回戦 vs 関大FC2008

312
得点・02分・05分 関大
50分 つくばFC 鈴木健介
61分 つくばFC 小黒翔太
73分 つくばFC 池田晃太

2回戦は大荒れの展開となっ
た。試合開始から5分間で2点を
献上、いきなり苦しい展開に敗
戦ムード濃厚かと思いきや、意外
にもチームは冷静だった。前半
の中盤頃から次第につくばFCが
ゲームをコントロールするよう
になると、後半開始直後には、当時
茨城県リーグ得点王のストライ
カー鈴木健介(2015シーズン
をもつて選手活動を引退)がゲッ
トゴール。その10分後には、今も
尚、つくばFCの中盤を司る「つ
くばFCのダイナモ」小黒翔太が
同点弾を決めた。そして試合終
盤、昨季までつくばFCに所属
し、関東リーグベストイレブンに
も選出された、池田晃太(現在、
プリオベッカ浦安(『JFL』所属)
のヘッドイングシュートが決まり大
逆転。ベスト8進出を決めた。



<3年前、全社出場を決めた時の写真>

準々決勝 vs FC大阪

100
得点・13分 つくばFC 鈴木健介
ガンバ大阪・セレッソ大阪に
続く、知る人ぞ知る大阪第3の
サッカークラブ、FC大阪。現
在JFLに所属するこのチーム
と、準々決勝で対戦した。副島
監督は、「相手が格上なのはわ
かっていたので、しっかり守っ
て、少ないチャンスを決め切る
ことを徹底した。」と当時を振
り返る。その戦略通り、攻め込
まれる中でも耐え抜き、相手の
守備が薄くなったところでカウ
ンター。これがはまり、今大会
2得点目となる鈴木健介のゴー
ルで先制点を挙げる。その後、
FC大阪から猛攻を受けるが、
最後まで守り切り試合終了。全
国ベスト4を勝ち取った。
この時点で、次なる大会「全国
地域サッカーリーグ決勝大会」

(現在は全国各地サッカーチャ
ンピオンズリーグ。以下、地
決)の出場権を獲得した。この
大会は、全国9地域のリーグ優
勝チームと、全社上位3クラ
ブ、計12チームが出場する社会
人サッカーにとって最も権威あ
る大会である。この大会で上位
に食い込むと、アマチュア最高
峰のリーグ『JFL』への道も
開かれる。

準決勝 vs グルージャ盛岡

112
得点・32分・39分 盛岡
80+2分 つくばFC 石田司

準決勝で当たったのはグルー
ジャ盛岡。このチームはこの年、
J3に飛び級することになる。
ここまで快進撃を続けてきたつ
くばFCも、さすがに疲労が
ピークに達していた。そうなる
と、個々の能力が高く、チームと

して格上のグルージャに押し込ま
れる展開へ。シュート13本を浴
びるも、何とか2失点で抑える
と、後半ロスタイム、今大会全
試合、後半からの途中出場と
なった「つくばFCの切り札」
チーム最年少の石田司(現在、
Rajaprak Mangnont United『タ
イ3部』所属)が意地の一発を
決め、1-2。さらにその後、も
う一度ピックチャンスが訪れる
が、惜しくも決め切れずそのま
ま試合終了。健闘したものの今
大会初の黒星となり、3位決定
戦へ回ることにとなる。

3位決定戦 vs FC岐阜SECOND

113
得点・07分・30分・46分 岐阜
78分 つくばFC 松下晋也

3位決定戦の相手は、J2に
所属するFC岐阜のサテライト
チーム「FC岐阜SECOND」。
プロサッカークラブの底
上げの位置にあるチームだ。

「疲労、怪我也有り満身創痍の
状態。さらに上の大会への出場
権も獲得していたので、すでに
充実感もあった。それでも勝ち
にいった。」とあくまで勝利を
目指した副島監督。そのこと
は、試合後のインタビューで
「3点差がついても、誰一人諦
めている選手はいなかった。」
と語った当時のキャプテン、そ
して今でもDFリーダーとして
チームを引っ張る「闘将」坂本
龍一のコメントからも伺える。
78分の松下晋也(現在、アイデ

3年前のチーム目標は、「県
知事杯で優勝し、全社関東大会
出場権を獲得する。関東大会を
勝ち抜き、全社本戦に出場す
る。そして、上位に進出して地
決へ参戦。JFL昇格も視野に
入れる。」と盛りだくさんの内
容だった。トップチームの強化
を始めて2年目の県リーグ所属
チームにとって「野望」ともと
れるこの目標は、JFL昇格以
外すべて達成した。これは、客
観的に見れば、奇跡だったかも
しれない。しかしあの時、チ
ームの中に、このヴィジョンは確
かにあった。

「変わっているとしたら、周り
からの目、かもしれない」と副
島監督は言う。「チームとして
目指しているものは3年前も今も
一緒。当時と違うのは立場。3年
前は県リーグに所属し、格上相手
に勝利を収めた。しかし、今は
関東リーグ1部に所属。昨年は
そこで3位となり、3年前の格
上達と肩を並べるところまで来
ている。周囲の期待もひしひしと感
じている。3年前の『野望』のよ
うな目標は、今では『使命』とも
感じられる。使命は、達成しな

ければならない。」
全社での快進撃から早3年。
やり残した目標、『JFL昇
格』を胸に、今日まで戦ってきた。
力は確実に付いた。もうこの
チームの勝利は奇跡とは思わ
れないだろう。3年前、そして
現在までの間に得た「経験」
「自信」そして「誇り」を胸
に、いざ10月、全国で使命を果
たす。

第52回全国社会人サッカー選手権大
会(1回戦)
日時:10月22日(土)10時キックオフ
場所:北条スポーツセンター球技場
(人工芝) 愛媛県松山市
相手:FC Kawasaki(岐阜)

※2回戦以降トナメント表は、
「つくばFC」HPを「見下さい」。



1 三菱重工長崎戦 深澤
関大FC2008戦 小黒
4 3 2 1
FC岐阜戦 鈴木
失点するも決めていない様子